

千葉大学医学部附属病院

2014年7月、新しい外来診療棟を竣工した千葉大学医学部附属病院。診察の順番がわかる「案内表示システム」を新たに導入した。番号が表示されるディスプレイの後ろで、HPシンクライアントが稼働している。



目的

- 案内表示システム導入による患者へのサービス向上
- 端末数が増加しても管理負荷は増やさないシステム構成

アプローチ

- デジタルサイネージコントローラーとしてHPシンクライアントを採用
- HP t610 Thin Client

導入の効果

- 「案内表示システム」は非常に好評で、患者の満足度が向上
- 壊れにくく、排熱・騒音の心配もないため、HPシンクライアントの存在を意識することなく運用可能
- 本来の用途の他、インフォメーションディスプレイとしても活躍

2014年7月、千葉大学医学部附属病院の新しい外来診療棟が竣工した。病床数835床を誇り、千葉県医療の中核を担う大規模病院には、日々多くの患者が最先端の医療を受けるために足を運んでいる。新しい外来診療棟は待合スペースを広くするなど、患者への配慮が感じられるつくりになっているが、その中に一際目立つサイネージディスプレイが設置されている。「案内表示システム」と呼ばれるそのサイネージディスプレイには診察の順番待ち番号が表示されている。自分の順番があとどのくらいかを把握でき、患者へ心の準備や余裕をもたらしている。この案内表示システムのディスプレイコントローラーとして、HPシンクライアントが稼働している。静かで壊れにくく、大画面表示にも耐えうるパフォーマンスを発揮し、日々病院の運営を支えている。

新しい外来診療棟に導入した「案内表示システム」

千葉大学医学部附属病院は病床数835床を誇り、千葉県医療の中核を担う大規模病院。2014年7月に新しい外来診療棟が竣工、従来の約2倍の広さを生かして快適な診療空間を提供するとともに、患者の高齢化に対応して縦割り診療を廃した「高齢者医療センター」など、先進的な医療に取り組んでいる。

日本最先端の医療を提供する病院には、日々多くの患者が足を運び、待合スペースで過ごす時間も長くなる。この待合スペースに新たに設置されたのが「案内表示システム」だ。各診察室の入り口や待合室などに大小さまざまなサイネージディスプレイが設置され、診察順が番号で表示される。表示を見れば自分の順番があとどのくらいなのか分かるため、患者へ診察に対する心の準備や余裕をもたらす効果がある。また、以前は患者の名前を呼んでいた診療科もあり、プライバシーの問題も懸念されていたが、番号であればこのような問題も生じない。実際、稼働開始から半年以上経つが、問題はまったく起こっておらず、患者のみならず、病院スタッフにとっても満足度は高いという。

「案内表示システム」の裏で稼働するHPシンクライアント

一見、ただのディスプレイのみに見える「案内表示システム」。実は、病院内に置かれた256台のディスプレイの裏にはすべてHPシンクライアントが設置されており、「案内表示システム」のディスプレイコントローラーとして稼働している。外観をすっきりと見せるため、患者には端末が見えないつくりになっている。壁に埋め込んである箇所もあれば、ディスプレイのスタンドに格納している箇所もある。狭く密封された空間で端末を稼働させる場合、排熱や温度上昇、患者が多くいる場所での稼働音などが懸念される。HPシンクライアントは排熱がほとんどなく、狭い空間での稼働でも過度な温度上昇の心配はない。ファンレス、ディスクレスのため稼働音も静かで、患者が気にする心配もない。また交換対応が難しい場所へ格納しているため、故障率が低いことも重要だ。稼働部品が少ないHPシンクライアントは故障率も低く、このような環境下で利用する端末としては最適であった。また、HPシンクライアントはシンプルでほぼ管理が不要。リモートでも管理は可能だが、頻繁なアップデートやパッチ適用などの心配も



千葉大学医学部附属病院
副病院長 企画情報部長
超高齢社会研究センター長
教授
高林 克己 氏



千葉大学医学部附属病院
企画情報部 副部長
准教授
鈴木 隆弘 氏



案内表示システム



HP t610 Thin Client

なく、運用管理工数はほとんどないという。音も排熱も全く気にならず、管理も不要。「シンクライアントが稼働しているということは全く意識していない。単なるディスプレイとして認識している。」と企画情報部長 高林先生も言うほどだ。

大画面表示においても十分なパフォーマンスを発揮

新しい外来診療棟ができる約2年前から検討していた「案内表示システム」。以前の外来診療棟において、新しい外来診療棟で導入する環境とほぼ同様のテスト環境を準備し、念入りな検証・検討を行った。どのように表示すれば効果的なのか、どこに何台くらい、どのような大きさのディスプレイを設置すればいいのか、検討に検討を重ね、現在の満足度の高いシステムにつながった。

場所によって大きなディスプレイを設置する箇所もあったため、ディスプレイコントローラーには高パフォーマンスな端末が求められた。HP シンクライアントは検証時から大画面描画に

おいても十分なパフォーマンスを発揮。問題なく運用できると判断した。

今後さらに活躍の場を広げるサイネージディスプレイ

現在、診療時間が終了したあとは広報の場として使用している。サイネージディスプレイはポスターより注目度がある上、簡単にコンテンツを変えられ、効率的だ。一つのコンテンツを表示するのではなく、いくつかのコンテンツを順に表示するよう設定している。常に表示が変わる方がよく見てもらえるためだ。

さらに拡張の予定もある。現在稼働している「案内表示システム」が好評なので、まだ導入できていない診療科への導入も検討中だ。その他の用途としては採血室、生理検査室、どの病棟にもある患者一覧表など、活用できそうな場は非常に多い。

「満足度も高く、導入は成功だった。今後もいろいろな用途で活用していきたい。」と高林先生は締めくくった。



千葉大学医学部附属病院 概要

所在地

千葉県千葉市中央区玄阜1-8-1

創設

明治7年

診療部門及び診療科

30部門

消化器内科、血液内科、腎臓内科、アレルギー・膠原病内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、循環器内科、呼吸器内科、和漢診療科、心臓血管外科、食道・胃腸外科、胆肝臓外科、乳腺・甲状腺外科、呼吸器外科、麻酔・疼痛・緩和医療科、泌尿器科、救急科、整形外科、眼科、皮膚科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、歯科・顎・口腔外科、形成・美容外科、精神神経科、脳神経外科、神経内科、婦人科、周産期母性科、小児科、小児外科、放射線科

病床数

835床

従業員数

2,426名(平成26年5月現在)

(医師/歯科医師 719名、看護師等 1,006名、医療技術職員 287名、その他(教員、事務職員等)414名)

1日平均外来患者数

2,027名(平成25年度実績)

お問い合わせはカスタマー・インフォメーションセンターへ

03-5749-8343 月～金 9:00～19:00 土 10:00～17:00(日、祝祭日、年末年始および5/1を除く)

HPのシンクライアント製品に関する情報は <http://www.hp.com/jp/thinclient>

本ページに記載されている情報は取材時におけるものであり、閲覧される時点で変更されている可能性があります。予めご了承下さい。

本書に含まれる技術情報は、予告なく変更されることがあります。

記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

記載事項は2015年3月現在のものです。

© Copyright 2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

